

北原白秋の（二八八五〜一九四二）作品も時代が変われば読みも変わります。白秋はこのように読まれてきたのだという白秋の研究史について各分野の証を凝集。

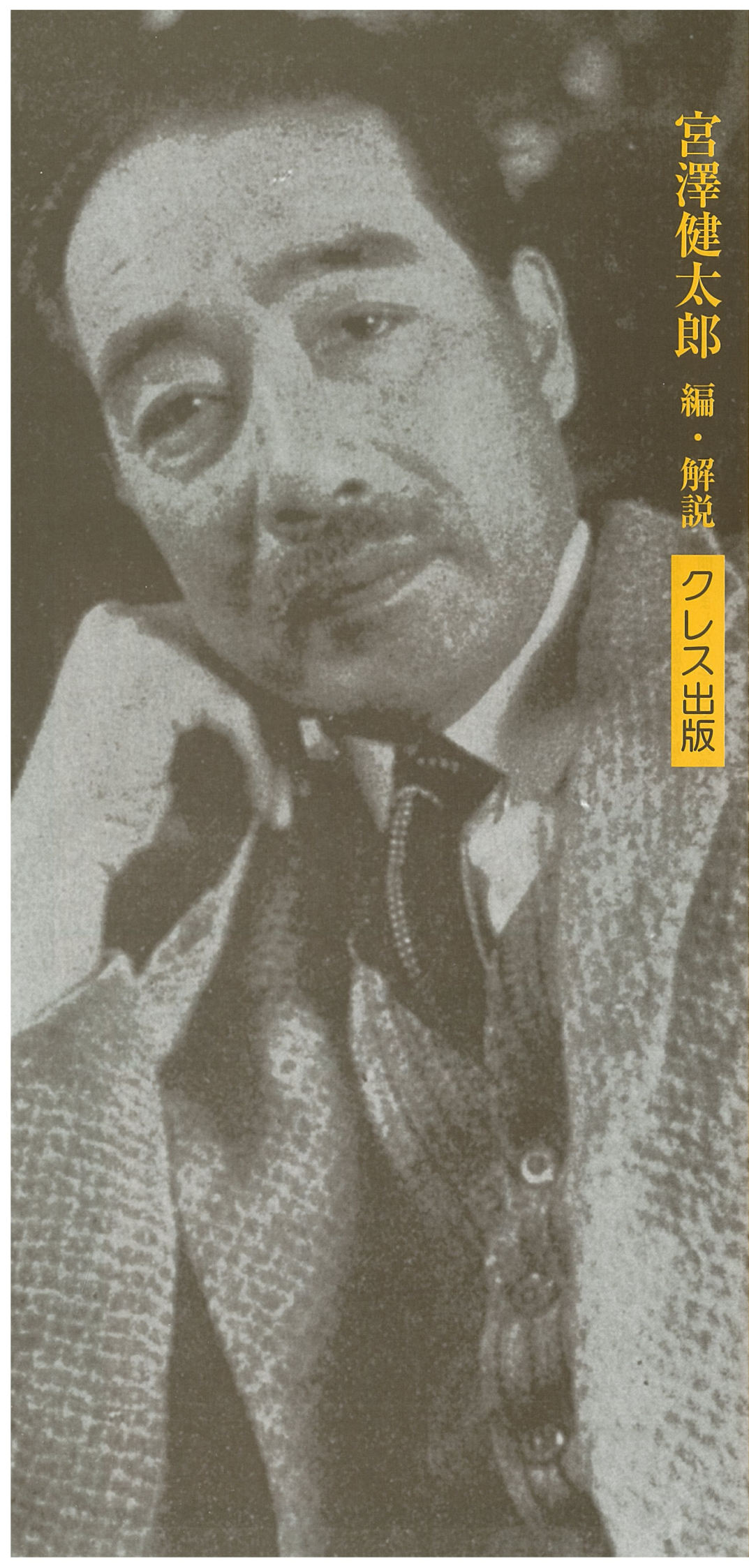
白秋研究資料集成

全10巻

宮澤健太郎

編・解説

クレス出版



宮澤 健太郎

北原白秋が亡くなって七十有余年になります。この間に白秋の伝記、評伝のほか短歌、俳句、児童詩や自由詩そして歌謡や童謡・民謡・校歌、小説などの研究書が多彩に出版されてきました。その主だったものは白秋の直門の弟子や門下生によって書かれたものが多いのですが、最近では客観的な作品論分析の書物も世に出はじめています。この研究資料集成では今や絶版になったり手に入りにくくなった重要と思われる書物を各分野に涉って集めてみました。

伝記評伝では定番の藪田義雄「評伝北原白秋」、宮本一宏「北原白秋〈物語評伝〉」松永伍一「北原白秋 その青春と風土」、短歌研究では木俣修の「白秋研究」、吉野昌夫「北原白秋の秀歌」。詩では嶋岡晨「詩人白秋その愛と詩」、飯島耕一「北原白秋ノート」、河村政敏「北原白秋の世界―その世紀末的詩境の考察」。歌謡・童謡では佐藤通雅「白秋の童謡」。児童自由詩では野口茂夫「北原白秋と児童自由詩運動」など입니다。

思えば、たとえば、白秋の詩に対する評価には詩人の金子光晴に代表される悪評「人間探求の深い悩みのかわりに異国情緒へのあこがれがあるにすぎない」だとか、「内容の乏しい遊戯」だという言葉が確かにありました。(金子光晴全集10巻76〜90頁)。そして勿論光晴の云う所がすべてではありません。しかしこれらを超越し、遊戯性をのり越え多芸多能ぶりを示す白秋の資質。これらは後に多くの分野で花開きました。そしてその業績は至る所で残っており今でも依然として口ずさまれている詩や歌もあり、賛嘆させられるでしょう。

岩波書店から『白秋全集』が出始めたのが一九八四(昭和五九)年一二月のことであります(全40巻)。まず詩集として全集が始まった訳ですが、それまでは世の中も学会も一般的には、以上のようなわけで積極的に白秋を読んだり、研究するという雰囲気は薄かったように思います。しかし白秋に一旦接する機会をもって読み始めるや、その人間的生き様、考え方、幅のある資質、言葉の彩、日本的リズムを含めて人間臭さの総体として迫って来るのを感じざるを得ません。時代が変われば読みも変わります。白秋はこのように読まれてきたのだという白秋の研究史について各分野の証をここに集めてみました。どうか手に取って御覧下さい。

(白百合女子大学名誉教授)

- 第1巻 評伝 北原白秋 増補改訂
●藪田義雄著／昭和53年／玉川大学出版部
- 第2巻 北原白秋〈物語評伝〉
●宮本一宏著／昭和61年／おうふう
- 北原白秋 その青春と風土
●松永伍一著／昭和56年／日本放送出版協会
- 第3巻 白秋研究
●木俣 修著／昭和21年／文化書院
- 北原白秋と俳諧
●木俣 修著／昭和18年「俳句研究」
- 第4巻 北原白秋の秀歌
●吉野昌夫著／平成7年／短歌新聞社
- 第5巻 詩人白秋その愛と詩
●嶋岡 晨著／昭和47年／社会思想社
- 第6巻 北原白秋ノート
●飯島耕一著／昭和53年／小沢書店
- 第7巻 北原白秋の世界 ―その世紀末的詩境の考察
●河村政敏著／平成9年／至文堂
- 第8巻 白秋の童謡
●佐藤通雅著／平成3年／沖積舎
- 第9巻 北原白秋と児童自由詩運動
●野口茂夫著／平成9年／興英文化社
- 第10巻 北原白秋 童心の彼方へ
●宮澤健太郎著／平成18年／白百合児童文化研究センター
- 追加論文(宮澤健太郎著)
「白秋小唄集」をめぐって、谷崎潤一郎と白秋、小川未明と白秋、「白秋の歌一首」と斎藤茂吉、白秋と朔太郎 朔太郎の恋文、金子光晴の童謡と白秋、「白南風」しらはえ」と白秋、白秋と室生犀星

『桐の花』

大正二(一九一三)年一月二十五日、東雲堂書店から刊行された。明治四十二(一九〇九)年ころから、明治末(一九二二)年ころに至る間に「スバル」「創作」「朱鸞」等に発表した短歌の中から四四九首(「集のをほりに」の最後に付された一首(この心を誰か悲しく弄ばむやんこともなしやんごともなし)を加えると四五〇首)を選抄して収録。ほかに、「桐の花とカステラ」「昼の思」「植物園小品」「感覚の小函」「白猫」「ふさぎの虫」と題する六篇の「小歌論」「詩文」いわゆる「桐の花小品」がそえられている。

春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと外の面の草に日の入る夕

「な、鳴きそ、鳴きそ」の「な……そ」は、相手に懇願して、婉曲に禁止の気持を示す「どうか……してくださるな」という用法。「な、鳴きそ、な、鳴きそ」の下の「な」を調子の上の配慮で省略している。巻頭の「小歌論」「桐の花とカステラ」の中で、白秋は「鳴かぬ小鳥のさびしさ……そ

■第4巻 北原白秋の秀歌



高崎旅行の際、右から尾山篤二郎、白秋、萩原朔太郎(大正2年頃)

第一章 『赤い鳥』の童謡運動

一 児童文芸誌『赤い鳥』の創刊

1 通称目白上り屋敷―はしがきに代えて―

かつてJR目白駅から目白通りを練馬方向へ向かって右に折れ、数分行ったところに、公立学校共済組合宿泊所鶴荘があった。その少し手前、豊島区目白三丁目一八番六号に、お屋敷風の目白千種画廊がある。その門前の植込みの傍らに、アルミ板の立て札「赤い鳥社・鈴木三重吉旧宅跡」が立っている。

赤い鳥社・鈴木三重吉旧宅跡

鈴木三重吉は一八八二(明治一五)年九月広島に生まれた。夏目漱石門下の小説家で、代表作に「桑の実」がある。一九一六(大正五)年ころからヨーロッパ童話の翻案に努め、一九一八年七月童話・童謡雑誌『赤い鳥』を創刊し、途中休刊をはきみ、一九三六(昭和一一)年六月に没するまで主宰した。『赤い鳥』は没後鈴木三重吉追悼号を出して廃刊になった。自宅は一時期を除き、雑誌の発行元・赤い鳥社を兼ねていた。

『赤い鳥』には有島武郎・芥川竜之介・菊池寛・江口渙・小川未明・坪田譲治・新美南吉らが童話を書き、北



大森馬込緑ヶ丘時代(昭和2年春頃)

■第9巻 北原白秋と児童自由詩運動

白秋研究資料集成 全10巻

宮澤健太郎 編・解説

第1巻	評伝 北原白秋 増補改訂	定価 12,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-838-1
第2巻	北原白秋〈物語評伝〉、北原白秋	定価 8,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-839-8
第3巻	白秋研究、北原白秋と俳諧	定価 9,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-840-4
第4巻	北原白秋の秀歌	定価 7,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-841-4
第5巻	詩人白秋その愛と詩	定価 6,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-842-8
第6巻	北原白秋ノート	定価 7,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-843-5
第7巻	北原白秋の世界	定価 9,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-844-2
第8巻	白秋の童謡	定価 6,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-845-9
第9巻	北原白秋と児童自由詩運動	定価 10,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-846-6
第10巻	北原白秋、追加論文	定価 8,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-847-3

A5判／上製函入 平成26年10月末日刊行

揃定価 82,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-848-0 (セット) C3392

クレス出版好評既刊書

子規研究資料集成 全七巻

越後 敬子 編・解説

〈回顧録編1〉	俳諧風聞記、友人子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-629-5
〈回顧録編2〉	随放子規居士、正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-630-1
〈研究編1〉	俳人子規、正岡子規	定価 11,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-631-8
〈研究編2〉	正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-632-5
〈研究編3〉	正岡子規研究、正岡子規の新研究	定価 17,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-633-2
〈作品評釈編1〉	子規俳句評釈、正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-634-9
〈作品評釈編2〉	子規句集講義、子規名句評釈	定価 15,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-635-6

揃定価 95,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-636-3 (セット)

松崎天民選集 全10巻

後藤 正人 監修・解説

第1巻	『小天地』所収作品集	定価 5,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-786-5
第2巻	人生探訪	定価 5,800 円 (税別)	ISBN978-4-87733-787-2
第3巻	社会観察 万年筆	定価 7,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-788-9
第4巻	恋と名と金と	定価 5,600 円 (税別)	ISBN978-4-87733-789-6
第5巻	漂泊の男・流転の女	定価 6,200 円 (税別)	ISBN978-4-87733-790-2
第6巻	歓楽の底より	定価 4,200 円 (税別)	ISBN978-4-87733-791-9
第7巻	女人崇拜	定価 5,800 円 (税別)	ISBN978-4-87733-792-6
第8巻	四十男の悩み	定価 8,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-793-3
第9巻	記者懺悔 人間秘話	定価 5,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-794-0
第10巻	人間見物	定価 6,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-795-7

揃定価 58,600 円 (税別) ISBN978-4-87733-796-4 (セット)